

1893

至急

廿九年二月

大臣義次官

主務局部長

主務課長

參事官

高級副官

人事課長

主查部員

主務副官

聯帶局部長

聯帶訓長

部于年十二月結

番受

號頌

三
部
一
一
〇
七
七

聽名
大車

件

名

留聲玉琴之秋聲

提出
一九二三年三月

福至重地奉迎会津の王上ハル
船刻ニ及ナ

數
七
號

洋台

月三日

叙勳 賜斗々し
申込ニナルモノニ付

1894

身

月 月
三 三
日 日



月 月
三 三
日 日

1894

叙勲取斗ハシ方照会ニ對シ取消シ
申込ニルモノニ付本件結了

陸軍省人事局恩賞課

陸軍省

送馬 卷一 一九號

三月四日

招き込め申破る中時にスマツルお重
 之武子重之信也より移時お成
 此子よ同人に申事之年續く
 着初る後一日廿五日迄ノ始末お成
 山田方時年續きて自づから
 りて書きたり月一身上一紙に就て
 新近又不勘ノ様有る事云々
 移時お成其の如き事ノ様
 消トは事云々お成其の如き事ノ様
 也



此上宮川舟乗現之原也

日下の人進歩一ニテハ少無
對シテハ如何ニテハ如何
而モ亦少カリ候
可クモ此ノ二月
大ニ古事ノ事ナ

独乙ノレウマツハ中尉從軍始末

明治廿年八月廿六日台北府駐在独乙帝國領事ドクトル、メル氏レウマツハ中尉ヲ台湾總督府ヨリ同伴シ来リル官ミレウマツハ中尉ヲ紹介シテ曰ク本人ハ予カ同國ニシテ普魯士軍野戰砲兵第三聯隊附砲兵一等中尉レウマツハ氏ニシテ貴國征台軍ニ從軍志願ナリト小官是ニ於テ始メテレウマツハ中尉ヲ識リ先ツ同中尉旅行自的ヲ伺フ中尉曰ク予ハ此度六月ノ休暇ヲ得テ本國ヲ發シ軍事視察ノ為メ印度及ヒ支那ヲ經テ只今台湾ニ着セリ是レヨリ日本及ヒ米國ヲ經テ帰國スル積リナリ最早ヤ休暇日数ノ半ニ至ントスルヲ以テ長ク台湾ニ留マルヲ能ハ

バ一二週日ノ間ニ彰化府ヲテ從軍致シタルト依テ小官ハ直
 ニ之ヲ總督ニ報告シ而メ領事及ヒレウマツハ中尉ヲ總督室
 ニ導キテ總督ハ中尉ニ面謁ヲ許サレ且ツ從軍ヲ聞キ届ケ
 ラレ小官ニ中尉ト同行レ宿舍給養等一切ニ付中尉ヲ満
 足セシムル如ク尽カスベキヲ命セラレテ依テ小官ハ中尉ト出
 發ノ時日ヲ定メ領事及ヒ中尉ト相カレシ
 同月廿八日午後一時中尉ト台北府ヲ發シ逐次ニ各所
 新戰場ヲ吊フテ九月ニ彰化府ニ達シ近衛少将
 ニ追及シタル是ニ於テ中尉ハ自カラ書ヲ認メテ在台北
 總督府ニ送り更ニ台南府ヲテ從軍ヲ願フタリ此時中
 尉ハ小官ニ向ヒ休暇日延クヲ本國ニ請願シタルト云ヘリ

數ノ後ケ總督府ヨリ電報ヲ以テ中尉ニ台南府マテ
 從軍ヲ許スモ達セラレタリ是ニ於テ小官ハ中尉ト同行近
 赤沙岡ト共、南進シ十月廿二日台南府・入レリ途中中尉
 ノ嚟ニ曰ク自分ハメキシブルノ出身ニテ現在ノ独逸帝國陸軍
 大臣ト郷里ヲ同フレ且ツ自分ハ母ハ陸軍大臣ノ妻ト從姉妹
 ナリ自分ノメキシブル國ノ代議士ナリト又中尉ハ小
 官ニ向ヒ日本東京ニ行ク順序便宜及ヒ沿道兵營視察ノヲ尋
 マタリ依テ小官ハ台南府ヨリ廣島縣宇品港マテハ鐵道
 及ヒ汽船等一切官費ヲ以テ渡航シ得ベキモ宇品ヨリ東
 京ニ向テハ大本營ニ伺ハズテハ待遇上判然ヤズト答ヘタリ
 十月廿三日中尉ト共、台南府ヲ發シ十月廿八日台北府ニ歸ル

翌々午前小官ハ佐府ヲ出京ヲ命セシ且ツ中尉ト
同行スベキ命ヲ受ケタリ依テ直ニ中尉ニ通知シ同午後下
台北府ヲ乗リ同夜基隆港出帆同月十三午後十時宇品
入港翌々午前中尉所屬島市達ニ投宿セリ同午後
八時電報ヲ以テ中尉待遇上ニ付大本營大佐副官同
タル所同夕返電アリ同官費スラ中尉ヲ待遇スル由
テシト依テ直ニ此電報ヲ中尉ニ示シ之ヲ口譯シ是ヨリ中尉
ノ自辯タルヲ通知セシメタリ

翌々午前中尉ハ宿料ヲ自弁シ小官ト共ニ廣
島ステーションニ至リ中尉ハ自ラ汽車賃及び荷物運
搬費ヲ拂ヒ出立セタリ

同十八日午後十一時過キ着京し直ニ帝國ホテルニ至リ投宿シ
タリ是ニ於テ小官ハ直ニ中尉ト相分カシ自宅ニ向ヘリ廣島ヨリ
東京ニ到ル間中尉ニ関スル宿料並ニ辦當料等ハ中尉自カラ
之ヲ仕拂フタリ十一月三十日野津大將及ヒ白耳義副領事
等四十餘名ヲ招キ宴ヲ催セリ

十二月十六日靖國神社臨時祭典ニ當リ中尉ハ軍服ヲ着ケ参
拜シ各國公使館附武官ノ末席ニ着列セリ

一月七日中尉カ著述セシ台灣從軍視察録ノ譯文出來上
リタルヲ以テ之ヲ携ヘテ近衛師團參謀長ヲ訪ヒ版權ヲ近
衛師團司令部ニ買上ケラレンコトヲ請求シタリ且ツ曰ク収
入金ノ内若干ヲ以テ著述上ノ費用ヲ支拂ヒ殘餘ノ收入

金ヲ以テ台灣ニ於ケル戦死者ノ遺族ニ贈與シタレト而モ參
 謀長ハ内外兵事新聞局ニ至リ相談スルヲ勸メタレタリ
 依テ中尉ト同行シ同局ニ向フ途中番地ノ間違ヨリ兵事新
 報社ニ至レリ同社ハ休業中ナリレヲ以テ果サス帰途
 中尉ハ更ニ近衛師團司令部ニ向テ自身直接ニ請求スルヲ
 ニ決心シタリ尔來小官ハ此件ニ付関係セス
 一月二十五日小官本職上多忙ナルヲ以テレウマツハ中尉ノ世話方
 シ辭シ大本營ニ於テモ之ヲ聞届ケラレタル旨ヲ中尉ニ告ケ中
 尉トノ関係ヲ絶テタリ

明治廿九年一月三十一日

陸軍歩兵大尉山田良圓

大臣		次官		参事官		主務局部長		主務課長		人事課長		高級副官		主務副官		主査課員		淨書	
受番		領號		武部一〇三		聯帶局長		聯帶課長		補遺		武部三年十月結		執行		提出		年	
件名		將逸臣友叙勲件		次官より年俸本部次長、出雲案		將乙陸軍砲兵中尉三エマツヘル		叙勲儀		年		月		日		年		月	

甘三の筆で総長より市福傑を本外務大臣、
 然會本外務大臣、同公使の意見をもて其供
 今日に至り此處用人に采るに付、別紙寫し
 通外務省主務課長、通傑の所長に依り
 全の身分より、茲稱政務居於此、故考るに付
 最初陸軍の手續并身分等先から其周
 上は四谷の煩をたて、外務省、四谷に才
 毛有るに付、至急其の調を事なすべし
 又此の旨を

臨人准第一一二

新

一月廿二日

第叁叁號

帝國ホテル滞在ノ独シ人「ロニー」マハラ件ニ付キ已ニ
 概略傳報候處帝國ホテル員ハ去ル廿五横濱
 々於テ同人ヲ取押ヘ独乙國領事「」出訴セシニ
 一昨廿六ヨ早頃ノ上横濱居留地百四十九番セ
 ントラル、ホテル、預ケ置クコト、ナリタリ且ツ同人ハ
 近衛師團、役軍人ノ際独乙國領事、現役
 陸軍中尉ナリト詐稱シタル由ニテ我カ宮内省ニ
 テハ勲章授與ノ手筈ナリシモ独乙公使ヨリ暫ク
 見合セラレタシトノ照會アリテ見合ヤ中ナリトノ事ニ
 依又ッ本人ハ本月廿六頃京橋区銀座ニ洋服店

大民ト称ス商店ヨリ金九拾圓借リ受ケ其代打棄
テアル由ニ有モ道古及事通牒セ
吸込サノ事一頁ナリ

警視廳第一部長

警視小倉信近

改安長中田義殿

1906

本年八月より、香港に到り、具に駐劄、
二、海軍に在りて、報告、海軍、武
勇ヲ表明セリ、海軍、艦ヲ以テ、
政治、自由、教訓、を成ル、海軍、
は、海軍、也、

陸軍省 送甲第二二二七號

十月廿二日

號外

獨逸野戰砲兵第三聯隊附

勲五等旭日章

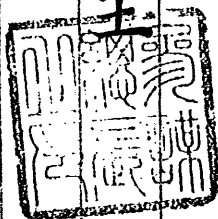
砲兵二等中尉 シュマツヘル、ツアルヒリン

Jernies Lieutenant Schumacher-Farschen

右者本年八月ヨリ臺灣ニ到リ具ニ各戰鬪ニ從軍シ本國ヘノ報告中我軍ノ武勇ヲ表明セリ依テ從軍ノ廉ヲ以テ今般頭書之通り叙勲相成候様致度候也

明治廿八年十一月廿日

參謀總長 彰仁親王



陸軍大臣侯爵大山 巖殿